

# シンガポールだより VOL.32



皆様、こんにちは。2021年4月より一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所に赴任しております、中田です。数か月に一度、シンガポールだよりとして現地の様子や、活動の状況等をお届けすることとなりました。初回の今回は、初めて訪れて受けたシンガポールの印象や、新型コロナウイルスを取り巻く状況について書かせていただきます。

ご存じのとおりシンガポールは東南アジアにある小さな都市国家で、面積は東京23区より少し大きい程度の約720平方キロメートルです。公共交通機関が充実しており、徒歩とバス、MRTと呼ばれる地下鉄で不便なく島内を移動することができます。道路も整備されていて4車線の一方通行、という道路も珍しくないのですが、シンガポールでは車両の台数を政府が管理しているため、車を購入するためには非常に高額（車そのものより高いそうです）な車両購入権を購入する必要があります。そのためか、街中で深刻な渋滞を見かけることはほとんどありません。また、暑い国という印象をお持ちの方も多いかと思いますが、気温は30度前後の日が多く、日本の真夏と比べると過ごしやすいように感じます。



マスクをして買い物する客

そんなシンガポールですが、政府の方針により新型コロナウイルス対策として入国の制限や集会の制限等を設けています。私も4月に入国した際は、政府指定のホテルで2週間「Stay Home Notice」と呼ばれる隔離を経験しました。隔離期間中はホテルの部屋から一切の外出が認められず、違反したことで高額な罰金やビザのはく奪といった罰則を科せられた事例もあります。4月中はシンガポール国内での市中感染は非常に低い水準で抑えられていましたが、デルタ変異株等による市中感染の増加やクラスターの発生を受け、5月中旬には飲食店内での飲食禁止等、規制の強化が行われました。これは国民の25%が毎日外食しているという調査結果が出るほど外食文化が根付いているシンガポールにおいては、人々の生活に大きな影響を与えたと思われます。6月末現在では規制は緩和傾向にあり、外出時に集まれる人数は1組5名まで、店内での飲食も1組2名までなら可能となっています。

現時点では在宅勤務を基本とするシンガポール政府の方針もあり、思うように活動ができない状況ではありますが、今後、赴任先の業務とともに、小山市と連携した活動をしていきたいと思えます。



人のいないレストラン街